

「「これからの学術情報システム構築
検討委員会」が実現を目指すこと」
を公開しました

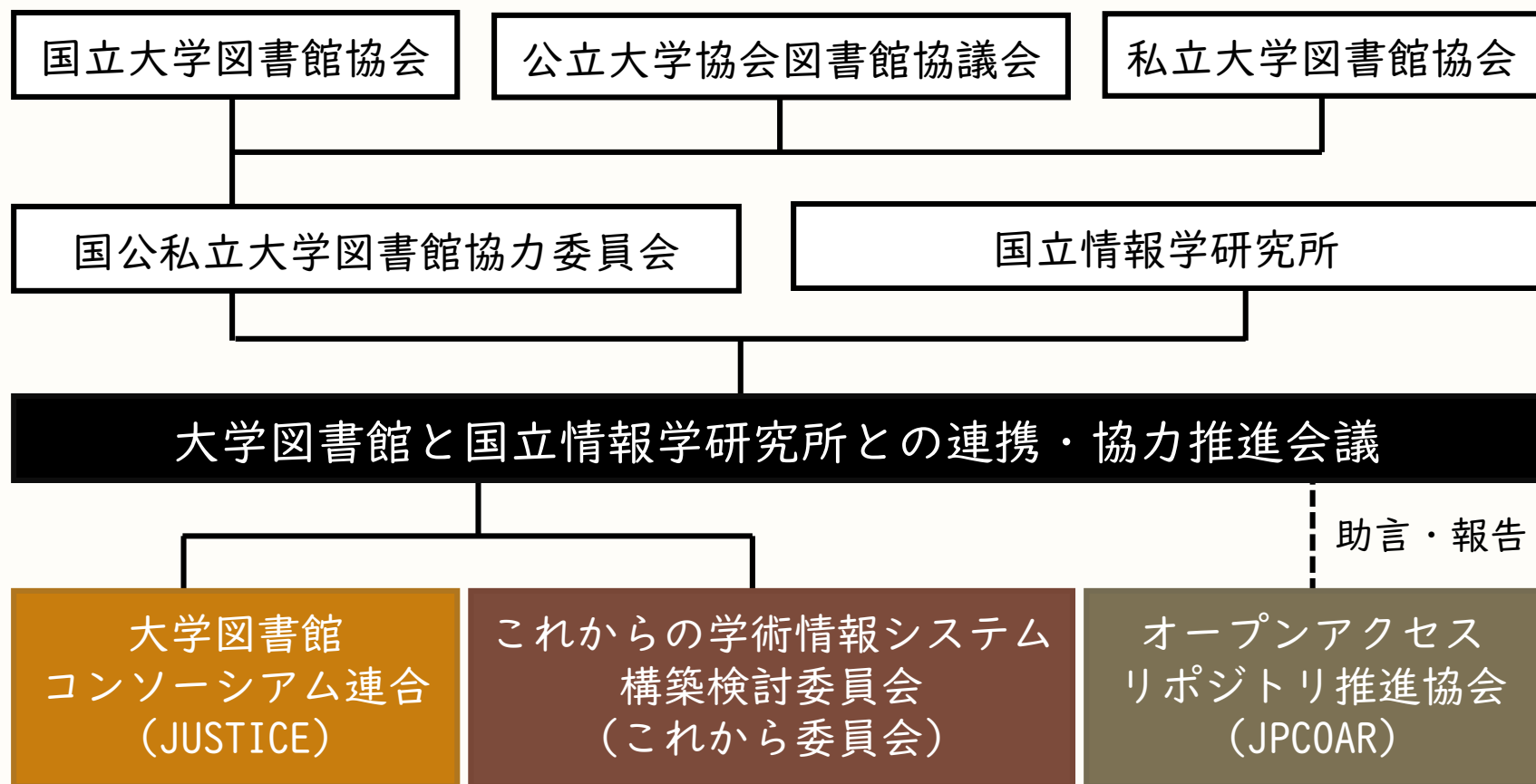
これからの学術情報システム構築検討委員会
小山憲司（中央大学）



目次

- 検討体制の概要
- 検討の経緯
- 「これからの学術情報システム構築検討委員会
が実現を目指すこと」

検討体制の概要



これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会設置 ERDB-JP公開
		NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」
2017	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「同（2017年度最終報告）」
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」他
		「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）
2019	作業部会の再編	システムモデル検討作業部会 システムワークフロー検討作業部会
2020		CAT2020開始（8/3）
2021		「大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新」
2022		ユーザーグループ試行運用 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」
2023	作業部会の再編 <u>「これからの学術情報システム構築検討委員会が実現を目指すこと」</u>	ユーザーグループ本運用 ユーザーグループ運営作業部会、システムワークフロー検討作業部会

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2015年5月)

3. 本委員会の当面の課題

上記の学術情報資源の変化に鑑み、進むべき方向性を見据えて、以下の2点を当面の課題とする。

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

電子リソースデータ共有作業部会

(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築（軽量化・合理化）

NACSIS-CAT検討作業部会

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

- 大学図書館等とNIIは、高等教育機関等における教育及び研究を支えるため、総合目録データベースと各大学図書館等の図書館システムを基礎として、研究者や学生等が電子情報資源や印刷体を区別なく利用できる、統合的発見環境を実現する新たな図書館システム・ネットワークの構築、管理、共有及び提供にかかる活動を連携して推進する。

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

3. 進むべき方向性

これまでの検討を踏まえ、これからの学術情報システムが実現すべき機能及び検討課題について、以下の5点にまとめた。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな
図書館システム・ネットワークの構築
- (2) 持続可能な運用体制の構築
- (3) システムの共同調達・運用への挑戦
- (4) メタデータの高度化
- (5) 学術情報資源の確保

「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

4. 次に取り組むべき課題

本委員会では、3のうち、次に取り組むべき課題を以下の3点とする。

- (1) 統合的発見環境を可能にする新たな図書館システム・ネットワークのモデル構築

システムワークフロー検討作業部会（飯野勝則主査）

- (2) 持続可能な運用体制の構築

- (3) システムの共同調達・運用に向けた課題検討

システムモデル検討作業部会（相原雪乃主査）

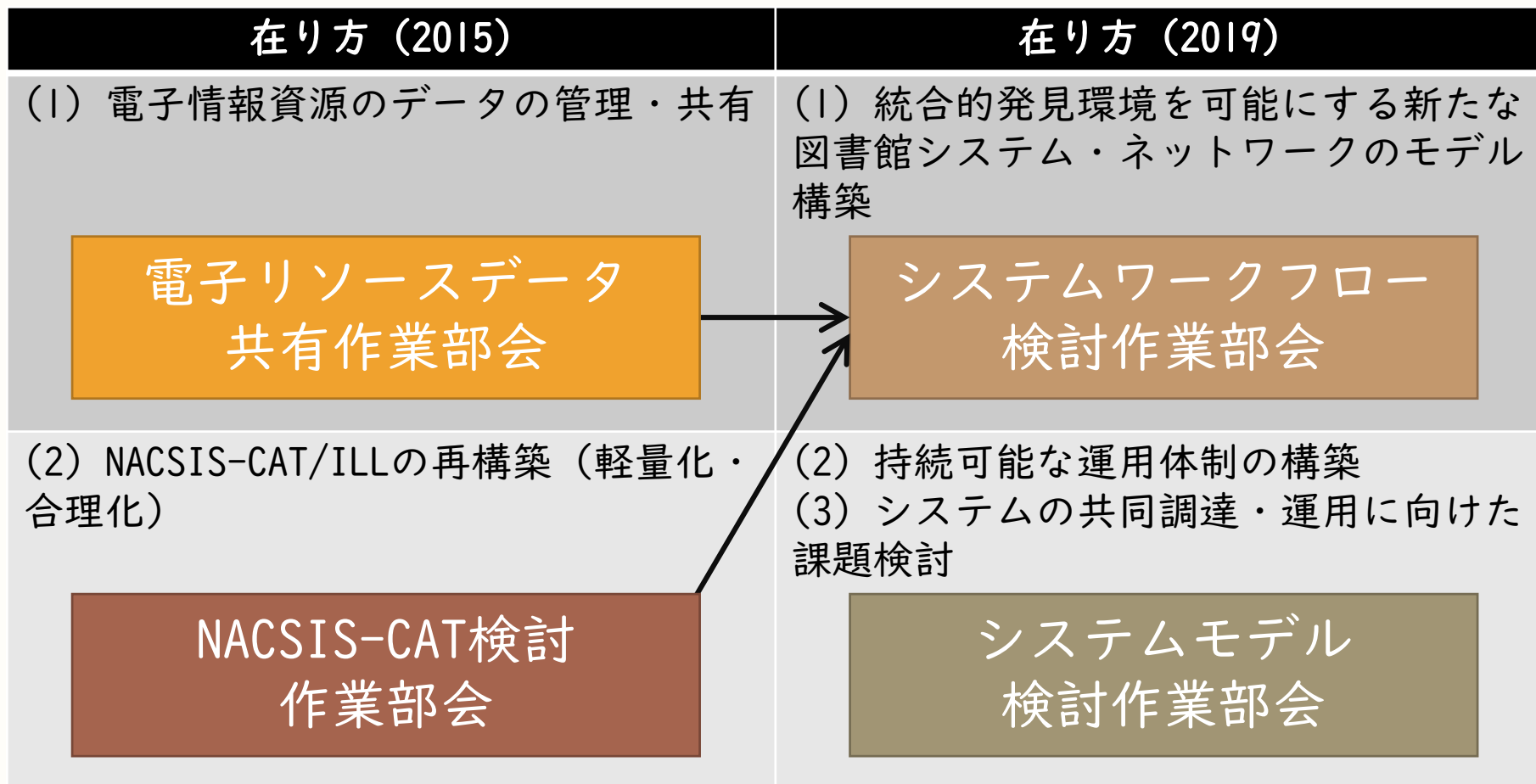
これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会設置 ERDB-JP公開
		NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」
2017	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「同（2017年度最終報告）」
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」他
		「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）
2019	作業部会の再編	システムモデル検討作業部会 システムワークフロー検討作業部会
2020		CAT2020開始（8/3）
2021		「大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新」
2022		ユーザーグループ試行運用 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」
2023	作業部会の再編 <u>「これからの学術情報システム構築検討委員会が実現を目指すこと」</u>	ユーザーグループ本運用 ユーザーグループ運営作業部会、システムワークフロー検討作業部会

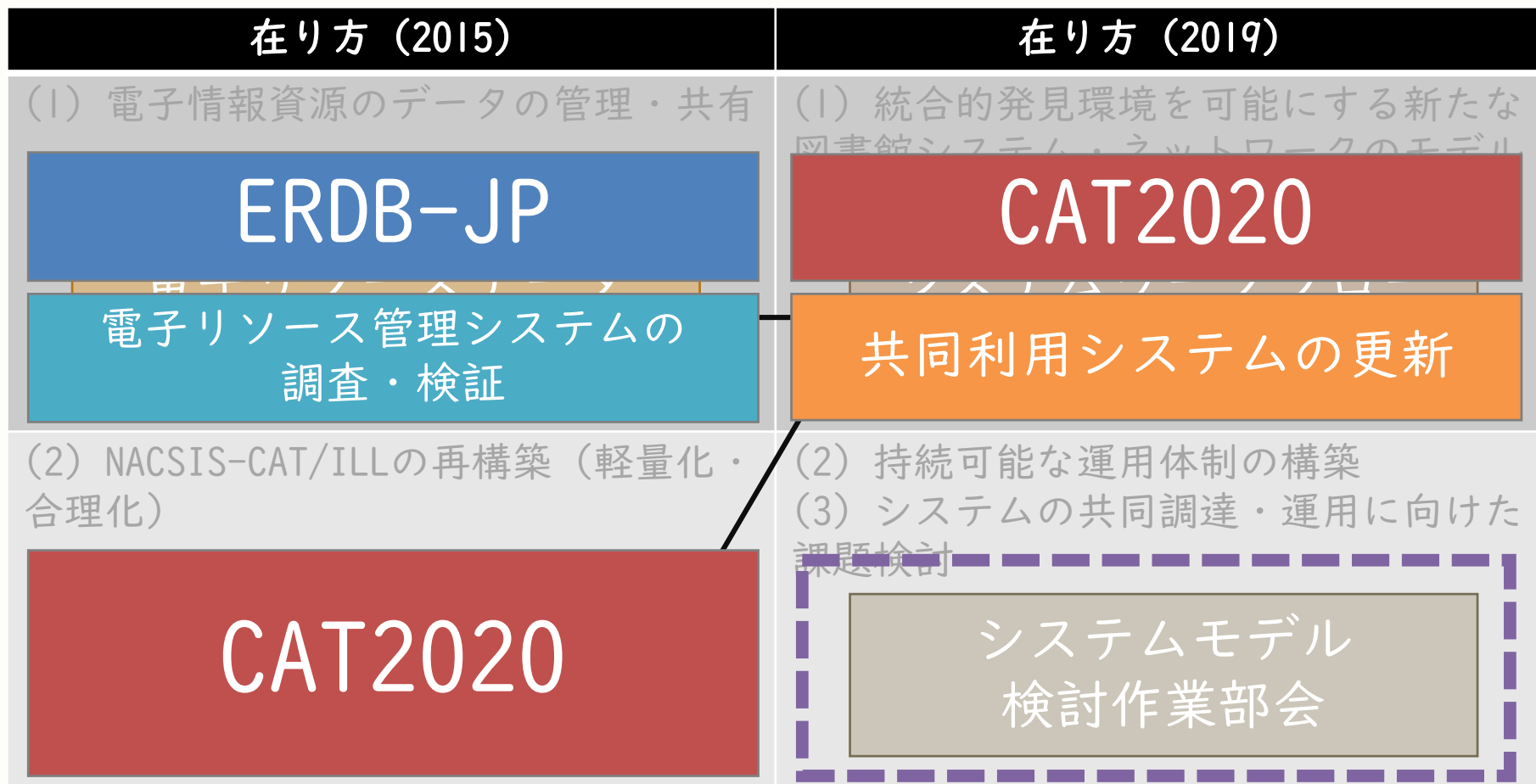
これから委員会のゴール 2022年を目指して

これからの学術情報システム構築検討委員会
小山憲司 (中央大学)

ここまでの検討の経緯（まとめ）



ここまでの検討の経緯（まとめ）



▶ ホーム

▶ ニュース

▶ 委員会・作業部会

▶ 規程

▶ ドキュメント・イベント

▶ 図書館システム・ネットワーク

▶ 新NACSIS-CAT/ILL

▶ 電子リソースデータ

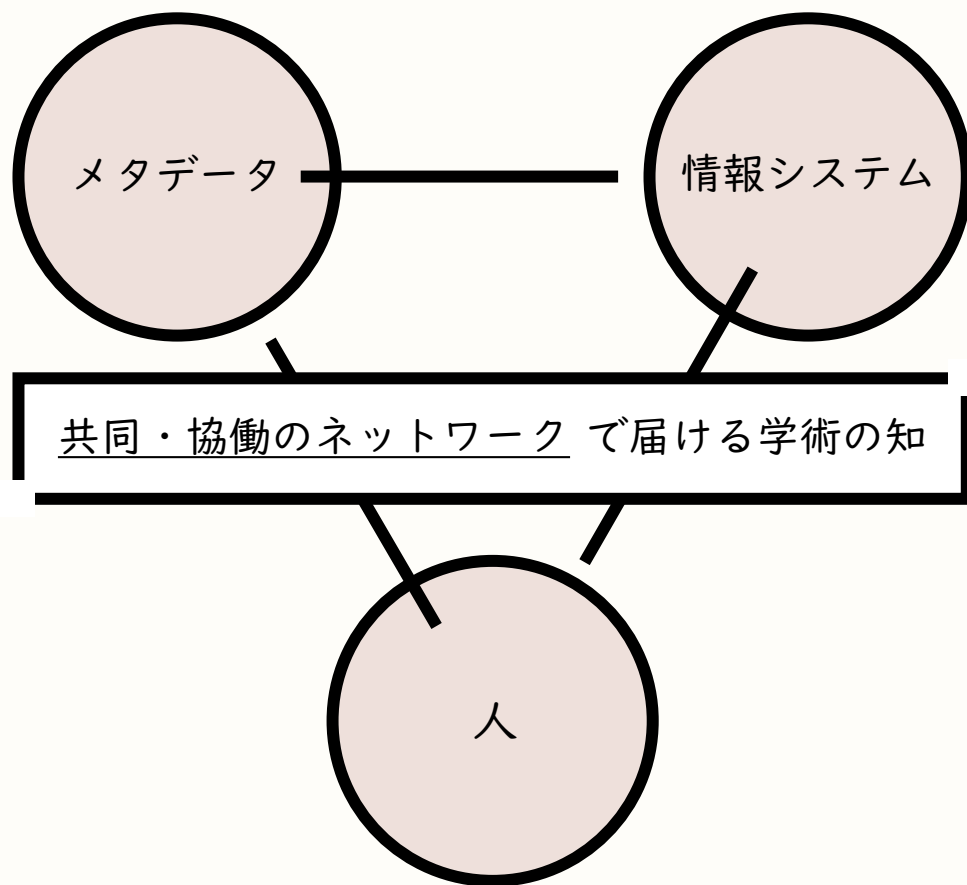
ユーザーグループ

ユーザーグループとは

- ユーザーグループとは、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進するために、「意見や情報の交換」、「共通課題の解決」、「人材の育成、能力開発」などに関わる活動を行うグループです。
- 以下の方がご参加いただけます。
 - ①「図書館システム・ネットワーク(*)」の利用機関および当該利用機関で「図書館システム・ネットワーク」の運営、そのデータ構築に関わる職員
 - ②その他、グループの目的に賛同する機関等で委員会が認めたもの※①は、申請手続き及び委員会の承認なく無条件で参加いただけます。
- 参加は無料です。

これから委員会における検討の経緯

委員会	電子リソース	目録システム
2012	委員会設置	ERDBプロトタイプ構築プロジェクト (-2013)
2014	電子リソースデータ共有WG	
2015	<u>「これからの学術情報システムの在り方について」</u>	電子リソースデータ共有作業部会設置 ERDB-JP公開
		NACSIS-CAT検討作業部会 設置 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
2016		「電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度最終報告）」
2017	これからの学術情報システムに関する意見交換会2017	「同（2017年度最終報告）」
2018	<u>「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」</u>	「電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築についての検討（2018年度報告）」他
		「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）」（→CAT2020）
2019	作業部会の再編	システムモデル検討作業部会 システムワークフロー検討作業部会
2020		CAT2020開始（8/3）
2021		「大学図書館向け学術情報システムを36年ぶりに一新」
2022		ユーザーグループ試行運用 「これからの学術情報システムのメタデータ収集・作成方針について(2022)」
2023	作業部会の再編 <u>「これからの学術情報システム構築検討委員会が実現を目指すこと」</u>	ユーザーグループ本運用 ユーザーグループ運営作業部会、システムワークフロー検討作業部会



図書館におけるDXの再定義

1980年代から続く共同・協働の成果

- ・参加機関 1339機関
- ・書誌/所蔵 1350万件/1億5000万件
- ・相互貸借 2450万件
(令和5(2023)年1月31日現在)

2020年代の課題

- ・情報流通のデジタル化・多様化
- ・研究教育活動のデジタル化
- アクセス性の担保が急務に

組織をつなぐ3つのネットワークの確立

メタデータのネットワーク

- ・外部連携と相互運用性の向上
- ・研究データ・デジタルアーカイブ対応

情報システムのネットワーク

- ・共同利用システムの構築

人のネットワーク

- ・ユーザーグループでの交流・議論
- ・人的リソースの共有による課題解決

当面の整備目標

- ① 国内電子ブックのメタデータを共有する
- ② 電子リソースのタイトル・ライセンス情報を整備する
- ③ オープンかつ国際的なメタデータ流通に貢献する
- ④ 情報の種別を問わない図書館システムを構築する
- ⑤ 多様なコンテンツの発見・アクセス環境を実現する

本文書について

1. 目的：これからの学術情報システム構築検討委員会が、研究及び教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）を前提として、学術情報資源のDXを促進するため、大学等学術研究機関及びそれらの図書館とともに、今後実現を目指すこと、及びそれに向けた当面必要な対応について、とりまとめた
2. 対象：これからの学術情報システム構築検討委員会が、大学等学術研究機関及びそれらの図書館とともに進んでいくために、それらの執行部を第一の対象としたが、上記目的の実現には、学術情報資源の流通・利用に関わる多方面のステークホルダーとの協働が不可欠であり、大学及び大学図書館以外のステークホルダーも対象とする
3. 引用：本報告書の引用を行う際には、以下を参考に出典を明記願います
「「これからの学術情報システム構築検討委員会」が実現を目指すこと」,
2023.3.30. , これからの学術情報システム構築検討委員会.
DOI: <https://doi.org/10.20736/0002000899>

本日のスケジュール

時間	内容
14:00-14:15	「これからの学術情報システム構築検討委員会が実現を目指すこと」を公開しました 小山憲司（中央大学）
14:15-14:30	「ユーザーグループ」の本運用開始について ユーザーグループ運営作業部会 主査 安達匠（國學院大學学術メディアセンター）
14:30-14:45	システムワークフロー検討作業部会の検討状況 システムワークフロー検討作業部会主査 飯野勝則（佛教大学図書館）
14:45-15:00	休憩
15:00-15:20	前半の発表への質問タイム
15:20-15:30	新NACSIS-CAT/ILLの変更点と今後の予定について 阪口幸治（国立情報学研究所）
15:30-15:45	電子リソースデータ共有サービスの現在の状況 三村千明（国立情報学研究所）
15:45-16:00	後半の発表への質問タイム

ご清聴ありがとうございました